

第84回ボランティア広場概要 「LINE活用講座（応用編）」

1. 日 時：令和7年11月15日(土) 14時～16時
2. 場 所：かわぐち市民パートナーステーション 会議室1～3
3. 講 師：一般社団法人大人の小学校 校長 山城 純子氏
4. 参加者数：19名
5. 要 旨

本講座では、地域の情報発信ツールとしてのオープンチャットの活用方法について説明した。

際者に、オープンチャットはどのようなツールであるのか説明があった。オープンチャットはQRコードやURLから誰でも参加できる公開型チャットであり、最大5000人まで参加可能である。グループLINEが招待制で内部連絡を目的とするのに対し、オープンチャットは自分の団体について知らない人に知らせる手段として活用できる。また、ニックネームでの参加が可能であり、公開範囲も選択できる。管理機能が充実しており、最大10人まで管理者を設定できる点が特徴である。

次に、オープンチャットを有効に活用できる場面を、3つの仮想の事例を通して紹介した。具体的には、地域イベントの広報、清掃ボランティアの募集、講座やセミナーの案内といった事業であり、オープンチャットを利用するメリットとして、SNS未使用者にも情報が届きやすく、参加率の向上が見込まれることが挙げられた。一方で、匿名性による不適切な発言への注意が必要であることの説明もあった。

さらに、管理者の役割としてすべきことについての説明があった。ルールの設定、不適切な投稿の削除、参加者のブロックや通報対応、投稿制限の切替などがある。特に個人情報が特定できる投稿の削除や、荒らし・迷惑投稿への対応として投稿制限や承認制の導入が効果的である。

最後に、トラブル防止のため、具体的に実施できる方法について説明があった。まずは、ノートにルールをまとめておき、参加者にそちらの案内することが重要である。個人情報は投稿しない、誹謗中傷の話題は控える、写真投稿は許可を取る、質問は丁寧な言葉で、参加者同士は思いやりを持つといった内容を明示し、管理者は正しい情報を定期投稿することで、安全で円滑な運営が可能となる。管

理者だけでなく参加者もネットリテラシーへの理解を深め、全員が安心して利用できる環境づくりが求められる。

講座の後半では、紹介した作成手順に基づき、講師が実際にオープンチャットを作成し、受講生が任意で参加できる形を取ることで学びを深めた。

第8回ボランティア広場の様子

